

2020年度 授業評価アンケート報告書

関西学院大学経営戦略研究科

本報告書の概要

本報告書は、関西学院大学経営戦略研究科において2020年度に開講された授業についての学生及び教員による評価アンケート結果をまとめたものである。2020年度はコロナウイルスの感染拡大により、4月からオンラインでの授業の提供を行うこととなった。一部の授業はオンデマンド型で提供されたが、大半の科目はフルオンライン型と呼ばれる双方向型の講義形態で実施された。そのため、授業評価もオンラインで行われることとなり従来のマークシートを教室で配布する形式から変更となっている。その結果、授業評価アンケートを実施した授業科目は、原則的に2020年度に開講された338講義である。2020年度の授業評価アンケート調査実施対象授業科目の履修登録者数は3,763人(延べ人数、以下同じ)で、実際にアンケート調査を回答した者は2,973人であり、アンケート調査の回答率は79.0%であった。回答率はやや低下しているが、前年度と遜色の無いものとなっている。

学生による評価アンケートは、設問1から設問9が「教員の授業内容と方法」について、設問10と設問11が「学生自身の取り組み」について、設問12から設問14が「授業の満足度」についての質問となっており、いずれの設問も5段階評価で回答することとなっている。

今回の学生によるアンケート結果からは、経営戦略研究科の学生の、授業に対する満足度に関する評価は概ね高い水準を維持している。設問13の「この授業は全般的に満足のものでしたか。」のスコアは、通年で4.45、春学期が4.40、秋学期が4.49であり、十分に高い水準であると考えられる。設問の中で最も高いスコアだったのは、設問3の「教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか」で、2020年度も通年で4.78と高い水準を保っている。つまり、担当教員が授業を行うための専門知識に関しては、学生から高く評価されていると考えられる。

他方、以前から継続して見られることであるが、学生自身の取り組みについての問いである設問10の「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」および設問11の「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」のスコアは、教員の授業内容や方法、授業の満足度についての設問のスコア(設問1~9、設問12~14)に比較して低い状況が続いており、授業外での課題設定を充実させる工夫が必要となろう。

経営戦略研究科所属教員による担当科目の自己評価については、各専攻の特徴を踏まえてコア、ベーシック、アドバンスト、課題研究の4つの科目群に分けて考察した。

まず、企業経営戦略コースでは、教員は概ね理論と実践のバランスに力を入れており、グループディスカッション等の方法を取り入れることとゲストスピーカーの実務家を活用するなどの特徴が見られた。総じて、実務での応用への橋渡しなどを意識している記述が多かった。

コア科目群では、基本的な理論・フレームワークを習得することに力点が置かれ、また、ビジネスに直結して応用させることが意識されていた。ベーシック科目群については「基礎的な知識を体系だてる」など基礎的な概念や理論の理解を挙げる教員が多かった。アドバンスト科目群では、発展的な科目という性質から、高い分析力を要求する科目も見られた。課題研究科目群では、課題研究基礎では「課題研究論文の進め方を理解させること」が多く、課題研究では研究内容の充実とスムーズな進め方が挙げられていた。

力を入れた点と実施して良かった点は同じ内容のものが多いが、今年度からWEB上での調査に変わっているので、その相違について分析が進むものと考えている。

国際経営コースでは、学生の評価と教員の取り組みと学生の評価の間に明確な関係が見られなかった点が問題となっている。その原因は明確ではないが、質問項目の変更や教員の取り組みに関して個別に検討する必要があると思われる。

会計専門職専攻では、例年細かな達成度合いについて数量的な把握を行っており、詳述は本文を参照されたい。その中でも学生の予備知識についての不足が指摘されており、そのための対応策が必要とされるだろう。

1. 授業評価の目的

学校教育法の改正により、大学・大学院において第三者評価が義務づけられ、専門職大学院においては5年に1回の第三者による認証評価を受けることが求められている。大学・大学院に対する第三者評価制度の導入は、自己点検・評価とともに教育研究水準の継続的な向上を目的としたものである。また、本経営戦略研究科は、教員の資質維持向上の方策のひとつとして、「授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等の実施」に取り組んでいる。

本研究科では、授業内容および授業方法の改善を図るため、各クォーターの最終授業期間に、学生による授業に関するアンケートと教員の担当科目自己評価を実施することとしている。授業評価の目的は、本研究科学生の実態や現状、学生の授業に対する認識・反応などをアンケートから探り、その結果を分析することによって、教育の現場に反映させる基礎資料を作成し、ビジネススクールおよびアカウンティングスクール教育の質的向上を図るとともに、ビジネススクールおよびアカウンティングスクール教育固有の教学上の諸課題を把握し、解明することにある。ここで注目したいのは、この学生アンケートと並んで、授業担当者自身の授業についての自己評価を学生の評価に合わせて実施していることである。これは、学生のアンケート結果と同時に実施されており、各教員は学生の授業評価結果を見ない段階で授業を振り返ってオンラインでアンケートの記入を行った。このような試みは、学生の評価と対照することでより良い授業のヒントが得られるものと思われる。オンラインでの授業評価の実施は教員にとっても回答しやすくなっており、自由回答欄の記述が充実するなど実施形態は改善されたと判断している。

本報告書は、本経営戦略研究科において2020年度に開講した授業についての評価アンケート結果をまとめたものである。本報告書の構成は、2020年度授業評価アンケート結果概要・分析、授業評価アンケート実施科目一覧、授業評価アンケートフォーム、授業別評定平均値一覧、集計結果表（全体・履修人数・専攻・コース・科目別）、教員の担当科目自己評価表およびグループ・インタビュー調査結果からなっている。

授業評価に関する調査の企画、調査票の作成、および集計結果についての分析と本報告書の執筆については、本研究科教授会のもとに設置された「経営戦略研究科自己評価委員会」のメンバーを中心として行われた。

調査の実施の方法等についての詳細は、以下の「調査実施方法及び期間等」のとおりである。今回の調査では、ほぼすべての授業科目および学生からの回答が得られた。アンケート実施に当たって、貴重な授業時間を割いていただいた各教員に感謝申し上げます。また、実際に回答を寄せていただいた学生諸君に深く謝意を表す。

2. 調査実施方法及び期間等

授業内容については、春学期（第1クォーター、第2クォーター、夏季集中）・秋学期（第3クォーター、第4クォーター、冬季集中）の授業終了時に受講生による授業評価を実施している。本報告の対象となる授業評価アンケートの実施方法や実施期間等については、以下のとおりである。

（1）実施対象授業科目について

授業評価アンケートを実施した授業科目は、原則的に2020年度に開講されたすべての講義である。本研究科全体でみた場合、アンケート実施対象科目（複数クラス開講分を含む。）は、338講義（春学期160講義、秋学期178講義）である。その内訳は、経営戦略専攻が207講義（企業経営戦略140コース講義、および国際経営コース67講義）、会計専門職専攻が131講義であった。

（2）回答者、回答率等について

2020年度の授業評価アンケート調査実施対象授業科目の履修登録者数は3,763人（延べ人数、以下同じ）で、そのうち、春学期が1,932人、秋学期が1,831人であった。また、実際にアンケート調査を回答した者は2,973人（春学期1,550人、秋学期1,423人）であり、アンケート調査の回答率は79.00%（春学期80.22%、秋学期77.71%）であった。各専攻別の内訳は次のとおりである。経営戦略専攻の授業科目の履修登録者数は2,782人（企業経営戦略コース2,198人および国際経営コース584人）で、そのうち、春学期は1,430人（企業経営戦略コース1,149人および国際経営コース281人）、秋学期は1,352人（企業経営戦略コース1,049人および国際経営コース303人）であった。アンケート調査の回答者数については、2,288人（企業経営戦略コース1,784人および国際経営コース504人）であった。そのうち、春学期は1,186人（企業経営戦略コース930人および国際経営コース256人）、秋学期は1,102人（企業経営戦略コース854人および国際経営コース248人）であった。回答率は82.2%（企業経営戦略コース81.1%および国際経営コース91.4%）である。そのうち、春学期は82.9%（企業経営戦略コース80.9%および国際経営コース91.1%）、秋学期は81.5%（企業経営戦略コース81.4%および国際経営コース81.8%）であった。また、会計専門職専攻の授業科目の履修登録者数は981人（春学期502人、秋学期479人）で、アンケート調査の回答者数は685人（春学期364人、秋学期321人）あり、その回答率は69.8%（春学期72.5%、秋学期67.0%）であった。

（3）実施期間について

授業評価は、春学期、秋学期の授業終了時に実施してきた。2020年度の授業評価アンケートの実施期間だが、各クォーター開講科目については、原則として下記期間の7週目に実施した。また、各集中講義開講科目については、下記期間の最終授業時に実施した。

第1クォーター開講科目：2020年6月3日（水）～6月10日（水）

第2クォーター開講科目：2020年7月25日（土）～7月31日（金）

夏季集中講義開講科目：2020年8月6日（木）～8月14日（金）

第3クォーター開講科目：2020年10月27日（火）～11月10日（火）

第4クォーター開講科目：2021年1月13日（水）～1月20日（水）

冬季集中講義開講科目：2021年2月2日（火）～3月3日（水）

（4）アンケートの実施について

授業評価アンケートは、次の手順で実施した。

- ①授業評価アンケートは、事前に各受講者に回答用フォームのURLを送付する。
- ②上記の実施期間にオンラインで回答。
- ③学生による授業評価である「授業に関するアンケート」は、質問項目数15で最高ポイントを5とし、それぞれ5段階評価のマークシートである。
- ④受講者の自由な回答を促進するためにも、授業担当者は、授業評価アンケート回収後も当該アンケートは閲覧せず、統計データを後日送付。

⑦「教員の担当科目自己評価表」については、事前に電子メールにて回答用フォームの URL を配布され、該当科目の成績報告書提出締切日までに経営戦略研究科事務室に提出（e メール可）した。

⑧「教員の担当科目自己評価表」は、オンラインで実施し、選択形式の 9 つの設問と自由記述形式の 3 つの設問からなっている。

（5）集計

2020 年度の授業評価アンケートについては、実施授業科目のクラスごとに集計を行った。この「授業評価アンケート集計結果」は、各授業クラスの履修登録者数、回答者数（学年別、所属専攻別、出身学部別の回答者数）、各設問の有効回答数、有効回答数の平均値および専攻平均値が示される。このうち、各設問の有効回答数の平均値と専攻平均値は、グラフによって視覚的にも明示している。

授業評価アンケートには、自由記述に関する設問が 3 問ある（「この授業で良かったところを具体的に書いてください」、「この授業で変えてほしいところがあれば、具体的に書いてください」および「この授業に関して気づいたことがあれば書いてください」）。学生による授業評価アンケート実施にあたっての基本的スタンスとして踏襲してきたように、この自由記述の回答内容については公表対象とせず、授業内容および方法の改善のための資料と資する目的から、授業担当者に配付している。

3. 経営戦略専攻・企業経営戦略コース

A. 学生による授業評価アンケート

（1）概観

以下では、2020 年度の授業評価アンケートの結果を、全科目群、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンスト科目群ごとに、同じ調査票が使用されている 2009 年度以降の結果と比較して分析していく。表 1 から表 4 は、全科目群、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンスト科目群ごとに、回答の平均値（小数点第三位で四捨五入）を、春学期、秋学期、通年別に示したものである（年度の一番下にある「平均」は 2009 年度から 2020 年度の数字を平均したものである）。

2020 年度の全科目群（表 1）の評価であるが、コロナ禍の影響によるオンラインによる講義の結果が影響しているためか、多くの質問で低下傾向にあり、春学期で 14 問中 12 問で、秋学期で 14 問中 10 問で、そして通年で 14 問中 12 問の質問で低下している。授業への満足度を問う設問 13 の「この授業は全般的に満足のものでしたか。」のスコアは、通年で 4.53 (2019 年度) が 4.41 (2020 年度) に低下しているが、これは全 14 問中 3 番目に大きな下げ幅で、オンラインの講義形式が満足度に負の影響を与えていることが伺える。最も低下が顕著であった設問は問 6 「教員は個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか」である（下げ幅:0.37）。これは、教員側/学生側双方がオンライン授業の実施に慣れていないことが講義内容の理解の難しさに結びついたらと解釈できよう。

しかしながら一方で明るい兆しも見受けられる。春と秋を比較した時、春の下がり方の全質問平均は 0.12 ポイント (max=0.37) であるのに対して、秋は 0.015 ポイント (max=0.15) と概ね前年と同様のスコアに戻っている。満足度の設問 13 も、前年に対して春は 0.18 の低下であったが、秋は 0.07 の低下に留まっている。さらに、春と秋のスコアを比較すると、全ての質問について上昇傾向が見られる。上述の問 6 も大幅な改善 (0.22 ポイント) が見られる。これらのことから、春の授業でオンライン講義を一巡経験した教員/学生双方が、教授方法および学習方法に改善があったと推察される。

表1：全科目群（回答の平均値）

春学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.51	4.58	4.67	4.31	4.35	4.14	4.18	4.13	4.49	3.97	3.91	4.10	4.33	4.19
2010	4.59	4.59	4.73	4.45	4.48	4.23	4.27	4.28	4.57	4.03	3.88	4.15	4.39	4.24
2011	4.54	4.59	4.73	4.36	4.51	4.15	4.12	4.17	4.51	4.04	3.88	4.07	4.32	4.26
2012	4.38	4.47	4.67	4.30	4.42	4.10	4.19	4.12	4.47	3.97	3.73	4.01	4.23	4.32
2013	4.55	4.57	4.71	4.36	4.45	4.13	4.19	4.14	4.50	3.99	3.83	4.08	4.31	4.39
2014	4.57	4.57	4.74	4.42	4.48	4.23	4.32	4.22	4.57	4.06	3.87	4.13	4.40	4.46
2015	4.59	4.62	4.74	4.46	4.54	4.29	4.35	4.32	4.60	4.02	3.86	4.16	4.44	4.51
2016	4.55	4.63	4.73	4.41	4.47	4.23	4.33	4.22	4.53	4.03	3.82	4.16	4.39	4.46
2017	4.60	4.61	4.76	4.42	4.48	4.19	4.31	4.18	4.57	4.02	3.88	4.12	4.37	4.46
2018	4.65	4.69	4.78	4.50	4.55	4.35	4.36	4.41	4.65	4.10	4.17	4.26	4.49	4.56
2019	4.62	4.69	4.82	4.55	4.60	4.40	4.44	4.41	4.67	4.18	4.24	4.31	4.54	4.60
2020	4.52	4.60	4.78	4.45	4.39	4.03	4.30	4.24	4.48	4.19	4.27	4.21	4.36	4.50
平均	4.56	4.60	4.74	4.42	4.48	4.21	4.28	4.24	4.55	4.05	3.94	4.15	4.38	4.41

秋学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.58	4.57	4.71	4.43	4.39	4.20	4.28	4.32	4.54	4.03	4.01	4.15	4.39	4.30
2010	4.66	4.64	4.71	4.51	4.52	4.30	4.38	4.34	4.58	4.14	4.04	4.24	4.40	4.34
2011	4.56	4.58	4.71	4.42	4.46	4.27	4.27	4.27	4.59	4.00	3.92	4.17	4.40	4.27
2012	4.50	4.58	4.68	4.38	4.43	4.16	4.21	4.22	4.49	4.02	3.87	4.06	4.27	4.35
2013	4.46	4.49	4.61	4.31	4.37	4.12	4.21	4.16	4.49	4.00	3.94	4.04	4.26	4.32
2014	4.61	4.63	4.74	4.49	4.54	4.33	4.37	4.29	4.60	4.13	4.00	4.20	4.43	4.52
2015	4.62	4.66	4.75	4.49	4.57	4.37	4.38	4.36	4.64	4.08	3.98	4.25	4.46	4.50
2016	4.63	4.67	4.80	4.51	4.46	4.28	4.36	4.28	4.59	4.02	3.88	4.18	4.49	4.54
2017	4.66	4.72	4.82	4.53	4.53	4.37	4.36	4.33	4.64	4.09	3.97	4.25	4.51	4.57
2018	4.74	4.74	4.81	4.63	4.70	4.54	4.51	4.50	4.74	4.29	4.30	4.41	4.63	4.67
2019	4.63	4.67	4.80	4.52	4.56	4.40	4.43	4.41	4.65	4.23	4.20	4.34	4.53	4.59
2020	4.62	4.66	4.80	4.55	4.54	4.25	4.35	4.38	4.63	4.35	4.30	4.28	4.46	4.57
平均	4.61	4.64	4.74	4.48	4.51	4.30	4.34	4.32	4.60	4.12	4.03	4.21	4.44	4.46

通年

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.54	4.57	4.69	4.37	4.37	4.17	4.23	4.22	4.51	4.00	3.95	4.12	4.36	4.25
2010	4.62	4.61	4.72	4.48	4.49	4.26	4.32	4.31	4.58	4.08	3.95	4.19	4.40	4.29
2011	4.55	4.58	4.72	4.38	4.49	4.20	4.19	4.22	4.55	4.03	3.90	4.12	4.36	4.27
2012	4.44	4.52	4.68	4.34	4.42	4.13	4.20	4.17	4.48	4.00	3.80	4.03	4.25	4.34
2013	4.51	4.53	4.66	4.34	4.41	4.13	4.19	4.15	4.50	4.00	3.88	4.06	4.29	4.36
2014	4.59	4.60	4.74	4.45	4.51	4.28	4.34	4.26	4.58	4.09	3.92	4.16	4.41	4.49
2015	4.60	4.63	4.74	4.48	4.55	4.33	4.37	4.34	4.62	4.05	3.91	4.20	4.45	4.50
2016	4.59	4.65	4.77	4.46	4.46	4.26	4.34	4.25	4.56	4.02	3.85	4.17	4.44	4.50
2017	4.63	4.66	4.79	4.47	4.50	4.28	4.33	4.25	4.60	4.05	3.92	4.18	4.43	4.51
2018	4.69	4.72	4.79	4.57	4.62	4.45	4.44	4.46	4.69	4.20	4.23	4.34	4.56	4.62
2019	4.63	4.68	4.81	4.53	4.58	4.40	4.44	4.41	4.66	4.20	4.22	4.32	4.53	4.60
2020	4.57	4.63	4.79	4.50	4.47	4.14	4.32	4.30	4.55	4.27	4.28	4.24	4.41	4.53
平均	4.58	4.61	4.74	4.45	4.49	4.25	4.31	4.28	4.57	4.08	3.98	4.18	4.41	4.44

次に、コア科目群(表2)、ベーシック科目群(表3)、アドバンスト科目群(表4)のデータを分析する。全体での分析と同様に前年度(2019年度)との比較結果を確認する。それぞれの科目群で特徴的な傾向がある。以下はそれを表にまとめたものである。

	コア		ベーシック		アドバンス		全体	
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
全平均	-4.9	-7.1	-4.5	11.6	-19.4	-7.1	-12.5	-1.6
質問13	-14.0	-21.0	-9.0	6.0	-24.0	-8.0	-18.0	-7.0

この表は、全14の質問の平均スコア(全平均)と質問13(満足度の質問)のスコアについて、2019年度と2020年度の差を示したものである。単位は%で、例えばコア科目群の春は2019年度のスコアから0.14低下したことを示している。

最も特徴的なのはコアとベーシックで、コア科目群は春よりも秋の方がより低下しているが、科目数が少ないことも原因しているかもしれない(春9科目、秋7科目)、新入生が最初に履修する科目群であることが理由で秋も改善しなかったのかもしれない。そうであれば、新入生に対する何らかの対策が必要となるであろう。一方でベーシックは春学期こそ低下したものの、秋には逆に2019年度より改善している。ベーシックもコア同様に科目数が少なく(春12科目、秋12科目)、授業を担当する教員のスキルも関係しているのかもしれない。アドバンスについては、春が悪く秋に改善するという全体と同様のパターンを示しており(科目数が多いので当然ではある)。オンライン授業に慣れてきた効果がでていると言えよう。

表2：コア科目群(回答の平均値)
春学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.40	4.48	4.69	4.15	4.17	3.98	4.06	3.92	4.43	3.84	3.78	3.89	4.16	4.03
2010	4.46	4.42	4.59	4.39	4.18	3.96	4.10	3.92	4.39	3.93	3.79	3.86	4.10	3.98
2011	4.41	4.39	4.64	4.10	4.07	3.72	3.86	3.73	4.24	3.85	3.50	3.56	3.85	3.90
2012	4.01	4.12	4.47	3.87	4.06	3.57	3.78	3.69	4.19	3.71	3.32	3.47	3.63	3.80
2013	4.50	4.45	4.71	4.29	4.32	3.87	3.97	3.98	4.37	3.90	3.62	3.93	4.16	4.27
2014	4.49	4.52	4.80	4.44	4.32	4.11	4.20	4.10	4.50	4.04	3.66	4.00	4.30	4.40
2015	4.48	4.46	4.75	4.28	4.39	4.03	4.20	4.15	4.43	3.76	3.55	3.86	4.25	4.36
2016	4.43	4.57	4.70	4.29	4.27	4.15	4.25	4.07	4.37	3.92	3.63	4.01	4.23	4.33
2017	4.52	4.51	4.79	4.37	4.39	4.09	4.28	4.11	4.44	3.86	3.56	3.92	4.27	4.38
2018	4.52	4.60	4.81	4.42	4.41	4.16	4.17	4.21	4.58	4.08	4.00	4.05	4.32	4.42
2019	4.54	4.58	4.77	4.47	4.46	4.26	4.25	4.24	4.55	4.08	4.11	4.11	4.38	4.51
2020	4.53	4.58	4.81	4.51	4.30	3.90	4.31	4.15	4.37	4.15	4.24	4.09	4.24	4.45
平均	4.44	4.47	4.71	4.30	4.28	3.98	4.12	4.02	4.41	3.93	3.73	3.90	4.16	4.24

秋学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.55	4.48	4.69	4.38	4.03	3.82	4.03	4.13	4.39	3.95	3.86	3.86	4.16	4.03
2010	4.72	4.68	4.78	4.52	4.25	4.10	4.35	4.34	4.57	4.20	3.96	4.10	4.29	4.15
2011	4.49	4.41	4.64	4.38	4.15	4.03	4.09	4.07	4.46	4.01	3.90	3.99	4.19	4.08
2012	4.08	4.13	4.35	3.78	3.84	3.59	3.84	3.82	4.08	3.66	3.38	3.57	3.65	3.80
2013	4.27	4.24	4.53	4.15	4.17	3.99	4.22	4.19	4.28	3.89	3.72	3.96	4.10	4.23
2014	4.50	4.55	4.75	4.40	4.29	4.14	4.24	4.15	4.49	4.03	3.72	3.97	4.21	4.33
2015	4.50	4.53	4.76	4.31	4.39	4.17	4.33	4.30	4.51	3.94	3.64	4.06	4.28	4.33
2016	4.39	4.47	4.73	4.32	4.01	4.02	4.23	4.22	4.24	3.74	3.58	3.90	4.25	4.27
2017	4.48	4.56	4.76	4.42	4.23	4.11	4.19	4.25	4.40	3.88	3.60	3.98	4.29	4.36
2018	4.68	4.73	4.84	4.52	4.48	4.47	4.44	4.51	4.63	4.01	4.12	4.20	4.56	4.57
2019	4.45	4.56	4.77	4.36	4.26	4.19	4.25	4.20	4.41	3.88	3.99	4.02	4.26	4.38
2020	4.38	4.51	4.70	4.38	4.31	3.90	4.11	4.14	4.39	4.05	4.06	3.78	4.05	4.23
平均	4.46	4.49	4.69	4.33	4.20	4.04	4.19	4.19	4.40	3.94	3.79	3.95	4.19	4.23

通年



年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.45	4.48	4.69	4.24	4.12	3.92	4.05	4.00	4.42	3.89	3.81	3.88	4.16	4.03
2010	4.58	4.54	4.68	4.45	4.21	4.03	4.21	4.11	4.47	4.05	3.87	3.97	4.19	4.06
2011	4.45	4.40	4.64	4.25	4.11	3.89	3.98	3.91	4.36	3.94	3.71	3.79	4.03	4.00
2012	4.04	4.12	4.42	3.83	3.98	3.58	3.81	3.74	4.15	3.69	3.34	3.51	3.64	3.80
2013	4.43	4.39	4.66	4.25	4.27	3.91	4.05	4.05	4.35	3.89	3.65	3.94	4.14	4.26
2014	4.50	4.53	4.78	4.42	4.31	4.12	4.22	4.12	4.49	4.04	3.69	3.99	4.26	4.37
2015	4.49	4.49	4.76	4.29	4.39	4.09	4.25	4.21	4.46	3.83	3.59	3.94	4.26	4.35
2016	4.41	4.51	4.71	4.31	4.14	4.08	4.24	4.15	4.30	3.83	3.60	3.95	4.24	4.30
2017	4.50	4.54	4.77	4.40	4.30	4.10	4.23	4.18	4.42	3.87	3.58	3.95	4.28	4.37
2018	4.58	4.65	4.82	4.46	4.44	4.28	4.28	4.33	4.60	4.05	4.05	4.11	4.42	4.48
2019	4.49	4.57	4.77	4.42	4.36	4.23	4.25	4.22	4.48	3.98	4.05	4.07	4.32	4.44
2020	4.47	4.55	4.77	4.46	4.31	3.90	4.22	4.15	4.38	4.11	4.17	3.96	4.16	4.36
平均	4.45	4.48	4.71	4.31	4.24	4.01	4.15	4.10	4.41	3.93	3.76	3.92	4.17	4.24

表3：ベーシック科目群（回答の平均値）
春学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.49	4.53	4.57	4.25	4.30	4.05	4.11	4.06	4.39	3.97	3.85	4.05	4.28	4.18
2010	4.61	4.60	4.78	4.45	4.54	4.22	4.23	4.28	4.60	4.04	3.82	4.17	4.41	4.21
2011	4.53	4.63	4.75	4.38	4.57	4.15	4.00	4.18	4.51	4.01	3.76	4.06	4.36	4.31
2012	4.38	4.55	4.72	4.38	4.47	4.16	4.18	4.16	4.45	3.98	3.65	4.08	4.32	4.41
2013	4.59	4.65	4.75	4.37	4.55	4.18	4.15	4.16	4.52	3.98	3.64	4.05	4.30	4.39
2014	4.55	4.51	4.68	4.31	4.47	4.10	4.27	4.12	4.49	3.99	3.73	4.00	4.30	4.37
2015	4.70	4.75	4.79	4.61	4.66	4.32	4.43	4.37	4.65	4.13	3.93	4.27	4.51	4.61
2016	4.53	4.62	4.71	4.40	4.54	4.18	4.34	4.22	4.54	3.98	3.76	4.12	4.40	4.47
2017	4.55	4.57	4.78	4.38	4.48	4.09	4.16	4.10	4.54	4.04	3.82	4.00	4.22	4.32
2018	4.63	4.71	4.82	4.50	4.57	4.29	4.24	4.31	4.61	4.14	4.15	4.20	4.44	4.54
2019	4.62	4.68	4.81	4.53	4.62	4.29	4.41	4.39	4.65	4.22	4.28	4.26	4.50	4.49
2020	4.57	4.69	4.83	4.49	4.48	4.00	4.28	4.21	4.57	4.35	4.35	4.32	4.41	4.57
平均	4.56	4.62	4.75	4.42	4.52	4.17	4.23	4.21	4.54	4.07	3.89	4.13	4.37	4.41

秋学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.60	4.54	4.67	4.39	4.27	4.10	4.19	4.22	4.38	3.99	3.83	4.10	4.33	4.27
2010	4.65	4.67	4.75	4.50	4.53	4.29	4.32	4.29	4.51	4.04	3.79	4.27	4.41	4.35
2011	4.50	4.59	4.73	4.38	4.57	4.21	4.22	4.27	4.60	3.90	3.73	4.18	4.34	4.23
2012	4.61	4.67	4.77	4.52	4.46	4.23	4.24	4.24	4.51	4.11	3.81	4.15	4.35	4.48
2013	4.39	4.38	4.57	4.18	4.17	3.92	4.03	3.92	4.37	3.85	3.73	3.83	4.10	4.18
2014	4.57	4.57	4.68	4.41	4.52	4.29	4.28	4.26	4.54	4.05	3.90	4.16	4.36	4.43
2015	4.69	4.64	4.75	4.53	4.53	4.31	4.29	4.37	4.61	4.02	3.80	4.16	4.45	4.47
2016	4.64	4.73	4.81	4.55	4.58	4.37	4.39	4.38	4.66	4.00	3.75	4.23	4.53	4.55
2017	4.65	4.73	4.78	4.52	4.49	4.29	4.35	4.26	4.63	4.04	3.92	4.16	4.39	4.47
2018	4.73	4.75	4.85	4.66	4.76	4.50	4.56	4.50	4.75	4.33	4.30	4.42	4.62	4.68
2019	4.63	4.65	4.76	4.50	4.52	4.32	4.38	4.35	4.59	4.22	4.06	4.30	4.45	4.53
2020	4.73	4.76	4.89	4.66	4.61	4.27	4.47	4.48	4.72	4.35	4.38	4.41	4.51	4.64
平均	4.62	4.64	4.75	4.48	4.50	4.26	4.31	4.29	4.57	4.07	3.92	4.20	4.40	4.44

通年

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.54	4.54	4.61	4.31	4.29	4.07	4.14	4.13	4.39	3.97	3.84	4.07	4.30	4.21
2010	4.63	4.63	4.77	4.47	4.54	4.24	4.26	4.28	4.57	4.04	3.81	4.20	4.41	4.26
2011	4.52	4.61	4.74	4.38	4.57	4.17	4.07	4.21	4.54	3.97	3.75	4.10	4.35	4.28
2012	4.48	4.60	4.74	4.44	4.47	4.19	4.21	4.19	4.48	4.04	3.72	4.11	4.33	4.44
2013	4.50	4.52	4.66	4.28	4.37	4.05	4.09	4.05	4.45	3.92	3.69	3.94	4.21	4.29
2014	4.56	4.54	4.68	4.36	4.50	4.20	4.27	4.20	4.52	4.02	3.82	4.08	4.33	4.40
2015	4.69	4.70	4.78	4.57	4.60	4.31	4.37	4.37	4.63	4.08	3.87	4.22	4.48	4.54
2016	4.59	4.68	4.76	4.48	4.56	4.28	4.36	4.30	4.60	3.99	3.75	4.17	4.46	4.51
2017	4.60	4.65	4.78	4.45	4.48	4.19	4.26	4.18	4.58	4.04	3.87	4.08	4.30	4.40
2018	4.68	4.73	4.83	4.58	4.67	4.40	4.41	4.41	4.68	4.25	4.23	4.31	4.54	4.61
2019	4.62	4.66	4.78	4.51	4.57	4.31	4.39	4.37	4.62	4.22	4.17	4.28	4.48	4.51
2020	4.64	4.73	4.86	4.57	4.54	4.13	4.37	4.33	4.64	4.35	4.37	4.36	4.46	4.60
平均	4.59	4.63	4.75	4.45	4.51	4.21	4.27	4.25	4.56	4.07	3.91	4.16	4.39	4.42

表4：アドバンスト科目群（回答の平均値）
春学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.62	4.71	4.77	4.51	4.56	4.39	4.37	4.39	4.65	4.07	4.07	4.32	4.53	4.35
2010	4.64	4.67	4.74	4.48	4.56	4.39	4.42	4.48	4.64	4.07	4.01	4.27	4.54	4.42
2011	4.61	4.63	4.75	4.46	4.64	4.34	4.36	4.36	4.63	4.16	4.17	4.31	4.50	4.38
2012	4.60	4.63	4.77	4.51	4.60	4.39	4.45	4.35	4.67	4.12	4.07	4.28	4.52	4.58
2013	4.55	4.57	4.68	4.41	4.46	4.27	4.35	4.24	4.57	4.07	4.10	4.21	4.43	4.48
2014	4.60	4.62	4.74	4.46	4.56	4.35	4.40	4.33	4.65	4.11	4.02	4.25	4.49	4.54
2015	4.58	4.63	4.71	4.48	4.55	4.41	4.39	4.38	4.66	4.09	3.97	4.26	4.51	4.54
2016	4.60	4.66	4.76	4.45	4.50	4.28	4.35	4.28	4.59	4.10	3.92	4.23	4.44	4.51
2017	4.64	4.65	4.74	4.45	4.50	4.26	4.37	4.23	4.62	4.06	4.00	4.22	4.45	4.54
2018	4.71	4.72	4.76	4.54	4.59	4.46	4.49	4.53	4.69	4.09	4.25	4.37	4.57	4.63
2019	4.66	4.73	4.84	4.58	4.64	4.50	4.52	4.47	4.72	4.19	4.27	4.39	4.62	4.68
2020	4.49	4.55	4.73	4.39	4.36	4.11	4.32	4.29	4.48	4.10	4.22	4.19	4.38	4.48
平均	4.61	4.65	4.75	4.48	4.54	4.35	4.40	4.36	4.63	4.10	4.09	4.28	4.50	4.51

秋学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.57	4.61	4.74	4.47	4.58	4.38	4.42	4.45	4.68	4.09	4.17	4.28	4.51	4.41
2010	4.64	4.61	4.67	4.50	4.61	4.38	4.42	4.36	4.62	4.18	4.20	4.28	4.43	4.40
2011	4.64	4.67	4.74	4.46	4.58	4.44	4.40	4.39	4.66	4.06	4.04	4.27	4.55	4.40
2012	4.58	4.67	4.74	4.50	4.61	4.31	4.31	4.36	4.61	4.10	4.06	4.18	4.44	4.47
2013	4.56	4.62	4.66	4.43	4.55	4.28	4.31	4.30	4.62	4.12	4.12	4.19	4.40	4.43
2014	4.68	4.71	4.79	4.59	4.65	4.43	4.49	4.37	4.69	4.22	4.18	4.31	4.58	4.66
2015	4.63	4.71	4.74	4.54	4.65	4.47	4.44	4.37	4.69	4.16	4.17	4.35	4.53	4.57
2016	4.71	4.73	4.81	4.56	4.57	4.34	4.39	4.26	4.69	4.13	4.05	4.26	4.57	4.64
2017	4.74	4.78	4.87	4.58	4.67	4.53	4.44	4.40	4.74	4.20	4.15	4.41	4.66	4.70
2018	4.76	4.75	4.78	4.64	4.73	4.58	4.51	4.50	4.76	4.34	4.34	4.46	4.65	4.70
2019	4.70	4.73	4.83	4.59	4.69	4.51	4.52	4.51	4.76	4.36	4.34	4.48	4.65	4.70
2020	4.64	4.66	4.78	4.55	4.59	4.36	4.36	4.40	4.66	4.46	4.33	4.37	4.57	4.65
平均	4.65	4.69	4.76	4.53	4.62	4.42	4.42	4.39	4.68	4.20	4.18	4.32	4.55	4.56

通年

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.59	4.65	4.75	4.48	4.57	4.39	4.40	4.42	4.67	4.08	4.13	4.29	4.52	4.38
2010	4.64	4.63	4.70	4.49	4.59	4.39	4.42	4.42	4.63	4.13	4.11	4.28	4.48	4.41
2011	4.62	4.65	4.75	4.46	4.62	4.39	4.38	4.38	4.65	4.12	4.11	4.29	4.53	4.39
2012	4.59	4.65	4.75	4.51	4.61	4.34	4.37	4.35	4.64	4.11	4.07	4.22	4.47	4.52
2013	4.56	4.60	4.67	4.42	4.51	4.28	4.33	4.27	4.60	4.10	4.11	4.20	4.41	4.45
2014	4.64	4.66	4.76	4.52	4.60	4.38	4.43	4.35	4.67	4.16	4.09	4.27	4.53	4.59
2015	4.61	4.67	4.72	4.51	4.60	4.44	4.41	4.38	4.68	4.13	4.07	4.31	4.52	4.55
2016	4.66	4.69	4.79	4.50	4.54	4.31	4.37	4.27	4.64	4.11	3.99	4.24	4.50	4.57
2017	4.68	4.71	4.80	4.51	4.57	4.37	4.40	4.30	4.67	4.12	4.06	4.30	4.54	4.60
2018	4.73	4.73	4.77	4.59	4.66	4.52	4.50	4.51	4.72	4.22	4.29	4.42	4.61	4.66
2019	4.68	4.73	4.84	4.59	4.66	4.51	4.52	4.49	4.74	4.27	4.30	4.43	4.63	4.69
2020	4.57	4.61	4.76	4.47	4.48	4.24	4.34	4.35	4.58	4.29	4.28	4.29	4.48	4.57
平均	4.63	4.66	4.75	4.50	4.58	4.38	4.41	4.37	4.66	4.15	4.13	4.29	4.52	4.53

(2) 科目別学生満足度

表5は、コア科目、ベーシック科目、アドバンスト科目の科目群別に、設問12の「この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか」、設問13の「この授業は全般的に満足いくものでしたか」、設問14の「この授業は今後の学習にとって有意義なものでしたか」の科目ごとの平均（小数第3位で四捨五入）を示したものである。各科目の授業の平均点については、履修人数、受講した学生など、様々な事情も絡んでいる。個々の教員がそれぞれに適切に分析し、今後の授業に生かしていくことが求められるであろう。

表5：科目ごとの回答の平均値
春学期・コア科目

科目名	クラス	履修者数	設問12	設問13	設問14
企業倫理	1	39	4.12	4.40	4.51
経営学	2	52	4.00	4.22	4.40
経営学	2	6	4.25	5.00	4.75
会計学	1	25	4.00	4.00	4.40
経済学	1	13	3.90	3.40	4.10
統計学		49	4.27	4.16	4.47
統計学	2	16	4.43	4.57	4.64
英語コミュニケーション		25	3.94	4.36	4.50
英語コミュニケーション	2	11	3.67	4.44	4.33

秋学期・コア科目

科目名	クラス	履修者数	設問12	設問13	設問14
企業倫理	2	33	3.83	4.39	4.42
経営学	3	18	3.67	3.73	4.00
会計学	2	39	4.41	4.55	4.73
経済学	2	20	3.00	2.94	3.39
統計学	3	25	4.05	4.05	4.29
英語コミュニケーション	3	24	3.38	3.96	4.04
英語コミュニケーション	4	13	3.55	4.17	4.25

春学期・ベーシック科目

科目名	クラス	履修者数	設問12	設問13	設問14
経営戦略	1	55	4.24	4.38	4.55
人的資源管理	6	36	4.39	4.52	4.61
マーケティング・マネジメント	1	23	4.50	4.80	4.70
コーポレート・ファイナンス基礎	2	34	4.42	4.61	4.74
テクノロジー・マネジメント	1	16	4.64	4.86	4.93
情報システム		24	3.93	4.00	4.13
ベンチャービジネス	1	23	4.55	4.70	4.75
公共経営論	1	26	4.33	4.40	4.52
行動科学	2	19	4.29	4.29	4.40
統計分析論		36	4.00	3.38	4.25
ゲーム理論		34	4.33	4.53	4.60
イノベティブ・シンキング	1	18	3.93	3.80	4.27

秋学期・ベーシック科目

科目名	クラス	履修者数	設問12	設問13	設問14
経営戦略	2	23	4.00	4.26	4.37
人的資源管理	2	26	4.36	4.64	4.68
マーケティング・マネジメント	2	30	4.64	4.56	4.64
コーポレート・ファイナンス基礎	2	24	4.48	4.48	4.62
財務諸表分析		46	4.50	4.47	4.61
テクノロジー・マネジメント	2	32	4.56	4.81	4.85
ベンチャービジネス	2	26	4.62	4.65	4.67
公共経営論	2	13	3.92	4.42	4.58
ゲーム理論	2	2	5.00	5.00	5.00
会社法		19	3.82	3.71	4.35
上級英語コミュニケーション	2	5	4.50	4.50	5.00
イノベティブ・シンキング	2	35	4.62	4.73	4.73

春学期・アドバンスト科目

科目名	クラス	履修者数	設問12	設問13	設問14
管理会計	2	38	4.23	4.74	4.71
企業経営史		9	4.44	5.00	5.00
組織管理		50	3.95	4.16	4.40
人材マネジメント		26	4.33	4.52	4.43
中小企業経営		25	4.52	4.43	4.52
地域振興		30	4.04	4.07	4.26
ブランド・マネジメント	2	32	4.22	4.39	4.48
マーケティング・コミュニケーション	1	11	3.89	3.89	4.00
マーケティング戦略		13	4.30	4.60	4.60
流通システム		6	4.50	4.50	4.67
消費者行動		8	4.67	5.00	5.00
リアルオプション		10	4.38	4.63	4.75
リスクマネジメント		6	5.00	5.00	5.00
Asian Financial Market		1	5.00	5.00	5.00
行動経済学		14	4.50	4.60	4.40
標準化経営戦略		42	3.89	4.08	4.14
知的財産戦略		10	4.67	4.50	4.83
Product Innovation		5	3.80	3.60	3.80
ベンチャービジネス事例研究		10	4.67	4.78	4.89
企業倫理事例研究		30	4.32	4.42	4.58
ベンチャーファイナンス		15	4.63	4.50	4.63
企業経営戦略特論A		12	3.63	4.25	4.63
企業経営戦略特論E		30	4.00	3.82	4.09
課題研究基礎	1	23	4.41	4.82	4.82
課題研究基礎	2	10	4.50	5.00	5.00
課題研究基礎	7	5	4.50	4.50	5.00
課題研究	1	5	4.50	5.00	5.00
課題研究	3	1	4.00	5.00	5.00
課題研究	13	1	4.00	4.00	4.00
課題研究	15	6	4.60	5.00	5.00
課題研究	17	4	4.67	4.33	4.67
課題研究	19	1	5.00	5.00	5.00
課題研究	27	3	5.00	5.00	5.00
官民パートナーシップ論		6	4.50	4.50	4.50
独立行政法人経営		7	3.25	3.80	4.00
自治体財務管理事例研究		4	4.00	4.33	4.33
病院経営事例研究		17	3.82	3.82	3.94
医療経済学		16	3.56	3.44	4.11
病院アドミニストレーション		11	4.22	4.44	4.22
大学経営		4	4.67	5.00	5.00
大学経営事例研究		6	4.17	4.67	4.67
大学組織管理		6	3.80	4.40	4.60

秋学期・アドバンスト科目

科目名	クラス	履修者数	設問12	設問13	設問14
組織行動		49	4.47	4.72	4.74
コーポレート・ファイナンス応用		8	4.80	4.60	4.80
企業家論		19	4.38	4.81	4.75
NPOマネジメント		7	4.40	4.40	4.60
事業システム戦略論		24	4.20	4.60	4.60
経営戦略事例研究		8	4.00	4.50	4.40
サービス・マーケティング		11	4.33	4.89	4.89
チャネル・マネジメント		5	4.67	5.00	5.00
マーケティング・コミュニケーション	2	8	4.67	5.00	4.83
営業戦略		9	3.43	3.57	3.57
国際マーケティング		4	1.67	1.33	1.33
マーケティング・リサーチ		22	4.06	3.76	4.18
Special Topics in Marketing		1	4.00	5.00	5.00
ソーシャル・マネジメント		10	4.00	4.83	4.67
証券投資		10	4.60	4.70	4.70
行動ファイナンス		4	4.50	4.75	4.75
イノベーション経営		11	4.73	4.82	4.91
生産システム		4	4.50	4.75	5.00
製品開発		17	4.46	4.69	4.69
データマイニング		17	4.11	4.00	4.00
製品開発事例研究		5	4.60	5.00	4.80
システム・シンキング		34	4.64	4.61	4.86
システム・デザイン演習		26	4.75	4.88	4.88
アントレプレナーシップ		8	4.43	4.29	4.43
中小企業経営革新		14	4.23	4.46	4.46
知的財産権法		4	4.33	4.33	4.67
研究開発型ベンチャー創成		7	5.00	5.00	5.00
企業経営戦略特論B		3	4.00	5.00	4.50
企業経営戦略特論C		13	3.90	3.80	4.20
企業経営戦略特論F		22	4.20	4.53	4.67
課題研究基礎	4	21	4.60	4.87	4.93
課題研究基礎	5	10	4.67	4.89	4.89
課題研究基礎	8	6	4.67	4.67	4.67
課題研究基礎	9	6	4.20	4.40	4.60
企業経営戦略特論M		12	4.75	4.88	4.88
課題研究	2	11	4.78	4.89	5.00
課題研究	4	9	4.71	4.88	5.00
課題研究	6	2	5.00	5.00	5.00
課題研究	8	3	4.67	5.00	5.00
課題研究	14	5	4.40	4.60	4.80
課題研究	18	6	4.80	5.00	5.00
課題研究	20	3	5.00	5.00	5.00
課題研究	22	1	4.00	4.00	4.00
課題研究	24	3	4.00	4.50	4.50
課題研究	28	9	4.56	4.67	4.78
公共経営事例研究		5	3.75	4.50	4.75
公共政策		8	4.25	4.38	4.38
自治体会計		1	5.00	5.00	5.00
自治体ガバナンス		2	4.00	4.50	4.50
自治体財務管理		3	3.00	4.00	4.00
病院経営		12	4.22	4.22	4.56
病院会計		11	4.17	4.50	4.83
病院組織管理		16	4.50	4.50	4.60
地域医療マネジメント		10	4.00	4.50	4.63
医療サービス・マネジメント		4	3.67	4.00	4.00
地方大学経営		8	4.25	4.63	4.75
大学ガバナンス		5	4.25	4.75	4.75
大学運営		20	4.13	4.38	4.56

B. 教員による担当科目自己評価

教員による担当科目の自己評価は Web 上でのアンケート形式で実施されている。主な質問項目とその集計結果を以下に示す。

1. 授業はシラバスに示した主題や目的に沿って行いましたか。
2. 学生が発言したり議論したりすることに十分配慮を払いましたか。
3. 個々の学生の内容理解の水準を考慮しましたか。
4. 学生の質問に丁寧に答えましたか。
5. この授業で学生の分析能力や批判力がついたと思いますか。
6. この授業はあなたにとって満足のいくものでしたか。
7. この授業は学生の仕事や資格の取得に役立つものと考えられますか。
8. この科目を担当するにあたって力を入れたことは何ですか。(複数選択可)
9. 上記 1～8 の回答を踏まえて、この科目を担当するにあたって当初予定していた目標は達成されたと思いますか。

設問	期	そう思う	だいたいそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	該当しない	合計
1	春	95	35	1	2	0	0	133
1	秋	51	23	0	0	0	0	74
2	春	70	32	7	2	4	18	133
2	秋	36	25	4	1	0	8	74
3	春	51	55	18	3	3	3	133
3	秋	27	37	9	1	0	0	74
4	春	72	45	4	5	0	7	133
4	秋	40	30	1	0	0	3	74
5	春	42	74	14	3	0	0	133
5	秋	27	38	6	1	0	2	74
6	春	39	68	13	9	2	1	132
6	秋	25	42	6	1	0	0	74
7	春	75	51	3	4	0	0	133
7	秋	36	29	6	0	0	3	74
9	春	43	73	10	4	2	0	132
9	秋	34	36	4	0	0	0	74
合計		763	693	106	36	11	45	1654

殆どの教員が、「そう思う」もしくは「だいたいそう思う」と回答しており、教員として満足のいく講義を行えていることがわかる。しかし一方で、本アンケートは学生の評価と連動しておらず、双方のギャップがどこにあるのかを今後解析する必要が出てくるであろう。

経営戦略専攻・国際経営コース

A. 学生による授業評価アンケート

以下に、国際経営コースにおける 2020 年度の授業評価アンケートの結果を春・秋学期別、および通年で過去 2 年度の結果と比較して分析する。ただし、質問項目 14「授業内容の就職後の実用性 (Course content were highly relevant and useful for your future career)」は国際経営コースで独自に追加している質問項目である。

表 1：2020 年度授業評価結果 (2018 年、2019 年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入)

	年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
春学期	2018	4.68	4.77	4.80	4.49	4.71	4.58	4.44	4.55	4.65	4.31	4.39	4.49	4.57	4.68
	2019	4.73	4.75	4.71	4.56	4.65	4.58	4.43	4.57	4.64	4.44	4.40	4.50	4.56	4.55
	2020	4.50	4.57	4.62	4.38	4.44	4.38	4.30	4.40	4.50	4.40	4.35	4.35	4.38	4.38
秋学期	2018	4.55	4.66	4.67	4.35	4.43	4.37	4.26	4.30	4.47	4.31	4.23	4.31	4.44	4.44
	2019	4.61	4.68	4.74	4.47	4.43	4.54	4.42	4.39	4.50	4.34	4.32	4.37	4.35	4.43
	2020	4.51	4.55	4.60	4.40	4.48	4.44	4.43	4.43	4.48	4.45	4.42	4.42	4.47	4.51
通年	2018	4.62	4.72	4.73	4.42	4.58	4.48	4.35	4.43	4.56	4.31	4.31	4.40	4.51	4.56
	2019	4.67	4.71	4.72	4.52	4.54	4.56	4.43	4.48	4.57	4.39	4.36	4.44	4.46	4.49
	2020	4.51	4.56	4.61	4.39	4.46	4.41	4.36	4.42	4.49	4.42	4.38	4.38	4.43	4.44

まず通年での学生による授業全体評価の水準自体は概ね高い評価で推移している。合計 14 の質問項目のうち半分の 3 項目で 4.5 点を上回り、その他の項目でも 4.0 点を下回るものはなかった。質問項目の全てが 4.0 点を超過していることを評価したい。ただし 2020 年度の数値は 2019 年に比べて多くの項目において評価が低下している。

具体的には 14 質問項目中、12 項目で評価が低下した。一方で、例年、比較的、評価が低い質問項目 10「You prepared and reviewed thoroughly for the classes」(4.42 点)、および、質問項目 11「You made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics」(4.38 点)、においては前年の傾向を引継ぎ、改善が続いた。他の質問項目での評価が低下したこともあり、結果としては、他の項目に対して、特段、遜色のない評価が得られる結果になった。教員側の授業設計の適否や、履修後の教育効果を問う質問群で評価が低下する一方で、学生側の主体的な学習への取り組み姿勢を問う質問に対する自己評価が改善した訳である。2020 年度は、ほぼ通年にわたりコロナ禍下でのオンライン授業が実施された。この結果、学生の自宅での学習が(少なくとも)主観的には充実した可能性が考えられる、という解釈も可能であろう。2020 年度春学期の成績データの分析からは、2019 年度比で統計的に有意な向上が観測されていることから、教育効果の増進と、学生による満足度評価とは区別して考察する必要があるものと考えられる。個々の質問項目の評価点を詳細に分析すると、高い評価の 3 つの項目としては質問項目 3「The instructor's knowledge level was high enough to teach the course」においては 4.61 点、質問項目 2「The instructor was well prepared for the classes」が 4.56 点、質問項目 1「The course met the objectives and topics described in the syllabus.」が 4.51 点であった。概ね昨年と同様の評価結果である。トップ 3 から伺えるのは、教員に

対する学生の高い評価である。教員全体が継続的な教育の向上活動（FD）を行ったこと、シラバス記載の充実を組織的に推進した結果が反映されているものと考えられる。次に高い評価が見られるのは、例えば質問項目 9「The instructor answered students' questions clearly and sufficiently.」が 4.49 点、質問項目 5「The instructor encouraged students comment and discussion.」が 4.46 点、質問項目 14「Course content were highly relevant and useful for your future career.」が 4.44 点、などであった。こちらも多少、順位の変動はあるものの、例年、高評価を得ることができている質問項目である。

表 2：2020 年度授業評価コア科目群結果（2018 年、2019 年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入）

	年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
春学期	2018	4.64	4.66	4.80	4.58	4.74	4.54	4.50	4.56	4.66	4.16	4.28	4.24	4.44	4.53
	2019	4.57	4.58	4.49	4.51	4.53	4.49	4.34	4.45	4.51	4.36	4.38	4.39	4.32	4.43
	2020	4.53	4.65	4.64	4.37	4.44	4.32	4.30	4.40	4.54	4.36	4.29	4.22	4.36	4.25
秋学期	2018	4.49	4.49	4.49	4.32	4.26	4.03	4.13	4.42	4.41	4.15	3.92	4.08	4.36	4.38
	2019	4.59	4.70	4.76	4.55	4.57	4.60	4.45	4.50	4.54	4.21	4.20	4.47	4.38	4.59
	2020	4.59	4.68	4.66	4.54	4.66	4.51	4.46	4.45	4.54	4.44	4.40	4.44	4.49	4.51
通年	2018	4.57	4.58	4.66	4.47	4.53	4.31	4.34	4.50	4.55	4.16	4.13	4.17	4.40	4.47
	2019	4.58	4.64	4.64	4.53	4.55	4.55	4.40	4.48	4.52	4.28	4.28	4.43	4.35	4.52
	2020	4.56	4.66	4.65	4.44	4.54	4.40	4.37	4.42	4.54	4.40	4.34	4.32	4.42	4.36

表 3：2020 年度授業評価ベーシック科目群結果（2018 年、2019 年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入）

	年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
春学期	2018	4.77	4.86	4.83	4.56	4.72	4.63	4.30	4.52	4.61	4.34	4.38	4.54	4.58	4.69
	2019	4.82	4.82	4.78	4.69	4.65	4.60	4.51	4.53	4.64	4.64	4.60	4.59	4.62	4.60
	2020	4.49	4.60	4.66	4.35	4.41	4.34	4.12	4.31	4.42	4.40	4.35	4.37	4.24	4.44
秋学期	2018	4.55	4.67	4.72	4.41	4.35	4.30	4.01	4.01	4.39	4.36	4.27	4.27	4.34	4.39
	2019	4.61	4.69	4.67	4.36	4.46	4.53	4.12	4.20	4.55	4.39	4.31	4.34	4.31	4.37
	2020	4.56	4.57	4.60	4.33	4.48	4.42	4.29	4.51	4.57	4.45	4.37	4.50	4.53	4.54
通年	2018	4.65	4.76	4.77	4.48	4.52	4.45	4.14	4.25	4.49	4.35	4.32	4.39	4.45	4.53
	2019	4.69	4.74	4.71	4.49	4.53	4.56	4.27	4.32	4.58	4.49	4.43	4.43	4.43	4.46
	2020	4.53	4.59	4.62	4.34	4.45	4.39	4.22	4.42	4.51	4.43	4.36	4.45	4.41	4.50

表 4：2020 年度授業評価アドバンスト科目群結果（2018 年、2019 年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入）

	年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
春学期	2018	4.65	4.77	4.78	4.41	4.70	4.58	4.48	4.55	4.67	4.36	4.45	4.58	4.61	4.74
	2019	4.76	4.80	4.79	4.53	4.71	4.61	4.44	4.65	4.71	4.39	4.33	4.51	4.65	4.58
	2020	4.48	4.52	4.60	4.40	4.44	4.42	4.38	4.44	4.52	4.42	4.38	4.41	4.46	4.43
秋学期	2018	4.57	4.72	4.70	4.33	4.56	4.56	4.48	4.47	4.55	4.34	4.31	4.42	4.55	4.50
	2019	4.64	4.66	4.79	4.52	4.29	4.49	4.71	4.49	4.42	4.39	4.42	4.33	4.38	4.38
	2020	4.44	4.46	4.56	4.38	4.37	4.41	4.51	4.37	4.38	4.45	4.47	4.35	4.42	4.49
通年	2018	4.61	4.75	4.74	4.37	4.63	4.57	4.48	4.52	4.61	4.35	4.38	4.50	4.58	4.62
	2019	4.71	4.74	4.79	4.53	4.54	4.56	4.55	4.59	4.59	4.39	4.36	4.44	4.54	4.50
	2020	4.46	4.49	4.58	4.39	4.41	4.42	4.44	4.41	4.46	4.43	4.42	4.39	4.44	4.46

また、表 2 から表 4 はコア、ベーシック、アドバンストの科目群による同評価結果である。全体評価との比較で考えると、傾向としては前述した内容と同じ傾向が見受けられる。つまり 2020 年度は全体的に評価が低下した。興味深いのは、教育効果への満足度を問う質問項目 12「You have obtained analytical abilities and critical thinking from the course.」、14「Course content were highly relevant and useful for your future career.」などではコア科目での評価の低下が全体の評価の低下につながっている一方で、科目の設計や

授業の運営方法などに関する質問項目 1~9 に関しては、コア科目、ベーシック科目、アドバンスト科目の全体にわたって評価の低下が観測されている点である。従来、ベーシック科目、アドバンスト科目を履修する際の礎となるコア科目群に対する授業評価結果を、どのように向上させていくのかが、各担当教員に課された大きな課題であった。コア科目は必修のコースで構成されているためベーシック科目、アドバンスト科目に比べて授業評価結果が低くなる傾向にあったわけだが、2020 年度には、こうした差が（主にアドバンスト科目、およびベーシック科目への評価の低下の結果として）解消された。

特に評価が低下した項目は、質問項目 1「The course met the objectives and topics described in the syllabus.」、質問項目 2「The instructor was well prepared for the classes.」、質問項目 3「The instructor's knowledge level was high enough to teach the course.」、および質問項目 6「Instructor's interest in whether students learned was high.」であり、アドバンスト科目（各 0.25、0.25、0.21、0.14 点の低下）、ベーシック科目（同 0.16、0.15、0.09、0.17）での評価の低下が顕著であった。質問項目 6「Instructor's interest in whether students learned was high.」については、コア科目についても 0.15 点の低下がみられた。上述の通り、質問項目 1~3 は例年に引き続き、高い評価が得られている質問項目ではあるだけに残念な結果である。オンライン授業への移行に伴い、機材の扱いに不慣れな点があったり、シラバスの修正が不十分であったり、といった事情が学生の満足度の低下につながった可能性は低くはないであろう。ベーシック科目、アドバンスト科目では、対面授業の経験がある履修者が多いであろうと推測されるので、過去の対面授業との比較から、コア科目に比べて顕著に評価が低下しているものと考えられる。質問項目 6 の評価の低下に関しても、やはりオンライン授業の中で教員側の教育効果へのコミットメントが十分に伝えきれていない部分があった結果であると考えられるだろう。

以上、従来、相対的に評価が低かった質問項目 10~11 での評価が向上する一方で、評価の高かった質問項目（特に質問項目 1~3、6）に対する評価を中心にアドバンスト科目群、ベーシック科目群での評価が低下した結果、質問項目間でも、科目群間でも評価のバラつき（具体的には標準偏差）が縮小し、全体としてメリハリのない評価になっている、と言える。これがオンライン授業の影響であるか否かは、より慎重な精査が必要であろうが、対面授業を実施できないために、学生側の取り組み姿勢が（少なくとも主観的には）改善する一方で、各授業の良さが伝わりにくくなった可能性は指摘できるであろう。

B. 教員による授業評価アンケート

教員による授業評価アンケートでは、軒並み、高い自己評価結果が得られた。全ての質問項目に対し、肯定的な回答が 9 割前後を占め、「そう思わない Strongly disagree」、および「あまりそう思わない Disagree」に対する回答比率の合計が 5%を超える質問項目は皆無であった。少なくとも、教員の自己評価に関して言えば、大きな課題は示されておらず、2020 年度も満足すべき授業が提供されたものと考えられるであろう。

より詳細に各質問項目への肯定的な回答の比率を示すと、下記の通りである。すなわち、「The course met the objectives and topics described in the syllabus.」（「そう思う Strongly agree」、「だいたいそう思う Agree」の回答比率：各々 77%、23%）、「You encouraged students comment and discussion.」（同：77%、19%）、「Your interest in whether students learned was high.」（同：72%、21%）、「You answered students' questions clearly and sufficiently.」（同：72%、23%）、「Students have obtained analytical abilities and critical thinking from the course.」（同：44%、42%）、「Overall, you are satisfied with the course.」（同：60%、29%）、「Course content were highly relevant and useful for students' future career.」（同：65%、26%）、「Do you think your goals have been

achieved? Please answer this question in terms of goals you set at the beginning of the course on the basis of the answers of the above 1–8 questions. 58%、30%)。上述した学生による満足度評価では、評価が低下した項目も多いので、総じて肯定的な評価が得られている教員の自己評価との間には、明確な乖離が存在するものと考えられる。

5. 会計専門職専攻

A. 学生による授業評価

(1) 概要

学生による授業評価アンケートは、【設問 1】から【設問 9】が「教員の授業内容と方法」について、【設問 10】と【設問 11】が「学生自身の取組み」について、【設問 12】から【設問 14】が「授業の満足度」について問うものである。

各設問の平均値（四捨五入）および【設問 13】とその他の設問との相関係数（四捨五入）は、次のとおりである。

表 1：各設問の平均値と【設問 13】とその他の設問との相関係数

番号	設問文	2020 年度春学期		2020 年度秋学期	
		平均値	問13との相関係数	平均値	問13との相関係数
1	授業内容は、シラバスで示された主題や目的に十分沿って いましたか。	4.8	0.65	4.8	0.57
2	教員は十分に準備をして授業に臨んでいましたか。	4.8	0.58	4.8	0.64
3	教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っ ていましたか。	4.9	0.55	4.9	0.60
4	授業で指定された教科書や配布された資料は、学習の助け となりましたか。	4.7	0.58	4.7	0.48
5	教員は学生が発言したり議論をすることに十分な配慮を 払いましたか。	4.5	0.50	4.6	0.42
6	教員は、個々の学生の内容理解の水準を考慮していまし たか。	4.3	0.68	4.5	0.58
7	この授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか。	4.4	0.64	4.6	0.55
8	授業の内容と時間配分は適正なものでしたか。	4.5	0.69	4.6	0.58
9	教員は学生の質問に丁寧に答えていましたか。	4.6	0.51	4.7	0.47
10	この授業を受けるに当たって予習や復習を積極的に行 いましたか。	4.5	0.50	4.5	0.37
11	この授業を受けるに当たって担当教員が示した参考文 献に当たりましたか。	4.4	0.40	4.5	0.30
12	この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思 いますか。	4.5	0.67	4.5	0.68
13	*この授業は全般的に満足のいくものでしたか。	4.5		4.6	
14	この授業は今後の学習にとって有意義なものです か。	4.7	0.78	4.7	0.83

コロナ禍により、2020 年度春学期は突然のオンライン授業化を余儀なくされた。非常に混乱していた時期だったので、授業資料を大学の web サイト上で配布するだけの授業も少なくなかった。また、急遽、オンライン授業用の課題を追加するなど対応をとったため、学生の負担が急増した。

そのため、2020 年度春学期は、特に【設問 6】「教員は、個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか。」(4.3)、【設問 7】「この授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか。」(4.4) の値が例年と比較しても顕著に減少した。ただし、半年経過して、オンライン授業に慣れたからか、秋学期には、【設問 6】(4.5)、【設問 7】(4.6) と、評点を戻している。これは、オンライン授業も半年が経過して、課題の質や量などについて、適正な水準が次第に分かってきたものと推察される。

(2) 全体評価～専攻平均値～

専攻平均値は、すべての設問の評点を平均したもの（四捨五入）である。会計専門職専攻が開設された 2005 年度から現在までの専攻平均値の推移は、次のとおりである。

表 2：専攻平均値の推移

	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度
春学期	3.9	4.2	4.3	4.4	4.3	4.3
秋学期	4.2	4.3	4.5	4.5	4.5	4.4
	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
春学期	4.3	4.6	4.6	4.7	4.6	4.6
秋学期	4.4	4.6	4.7	4.7	4.6	4.6
	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度		
春学期	4.6	4.5	4.6	4.6		
秋学期	4.5	4.6	4.7	4.6		

専攻平均値は、2007 年度秋学期まで上昇し続けた後、2008 年度から 2011 年度までは 4.3 から 4.5 という値を記録してきた。2012 年度以降は、4.5 以上を保ち続けている。このように近年は、総合的な評価としては高位での安定が図られているものと言ってよいであろう。また、2020 年度はコロナ禍により急遽、授業がオンラインに変更されたことを反映して、(表 1 で見たとおり) 2020 年度春学期は一部の設問（【設問 6】と【設問 7】）で低い評点となったのであるが、全体としては概ね例年と同水準を維持する結果となった。

(3) 個別評価

① 教員の授業内容と方法 (【設問1】～【設問9】)

表3：【設問1】から【設問9】の平均値

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9
(専攻全体)									
2016年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	4.5	4.6	4.6	4.7
2016年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.7	4.6	4.6	4.6	4.8
2017年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	4.5	4.5	4.5	4.7
2017年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.5	4.4	4.4	4.5	4.7
2018年度春学期	4.6	4.7	4.7	4.6	4.4	4.4	4.5	4.5	4.6
2018年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.6	4.5	4.4	4.5	4.6
2019年度春学期	4.7	4.7	4.8	4.7	4.5	4.6	4.6	4.6	4.7
2019年度秋学期	4.8	4.7	4.8	4.7	4.7	4.6	4.7	4.7	4.7
2020年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.5	4.3	4.4	4.5	4.6
2020年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	4.5	4.6	4.6	4.7
(コア科目)									
2016年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.5	4.5	4.5	4.5	4.7
2016年度秋学期	4.7	4.8	4.9	4.6	4.6	4.5	4.5	4.4	4.7
2017年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.6	4.5	4.4	4.4	4.4	4.6
2017年度秋学期	4.7	4.6	4.7	4.5	4.3	4.2	4.3	4.4	4.5
2018年度春学期	4.6	4.6	4.7	4.6	4.3	4.3	4.4	4.4	4.5
2018年度秋学期	4.6	4.6	4.7	4.6	4.4	4.3	4.3	4.4	4.5
2019年度春学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.5	4.5	4.6	4.6	4.7
2019年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.7	4.6	4.5	4.6	4.6	4.6
2020年度春学期	4.7	4.8	4.9	4.6	4.5	4.3	4.3	4.5	4.6
2020年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.7	4.5	4.4	4.4	4.4	4.7
(ベーシック科目)									
2016年度春学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.6	4.6	4.6	4.7	4.7
2016年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.6	4.6	4.7	4.8

2017年度春学期	4.9	4.9	5.0	4.8	4.8	4.6	4.7	4.7	4.9
2017年度秋学期	4.8	4.7	4.8	4.7	4.7	4.5	4.5	4.6	4.7
2018年度春学期	4.8	4.7	4.8	4.7	4.6	4.5	4.6	4.6	4.7
2018年度秋学期	4.8	4.8	4.8	4.7	4.6	4.6	4.5	4.6	4.7
2019年度春学期	4.8	4.7	4.8	4.8	4.6	4.7	4.6	4.7	4.7
2019年度秋学期	4.7	4.8	4.9	4.8	4.6	4.6	4.6	4.7	4.7
2020年度春学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.3	4.3	4.4	4.5	4.5
2020年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.6	4.6	4.6	4.7	4.7
(アドバンスト科目)									
2016年度春学期	4.7	4.8	4.8	4.8	4.8	4.5	4.6	4.6	4.8
2016年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.8	4.6	4.7	4.7	4.8
2017年度春学期	4.8	4.7	4.9	4.6	4.9	4.7	4.5	4.6	4.9
2017年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.7	4.6	4.5	4.5	4.8
2018年度春学期	4.5	4.6	4.7	4.6	4.7	4.5	4.4	4.5	4.7
2018年度秋学期	4.8	4.8	4.8	4.7	4.8	4.6	4.5	4.6	4.7
2019年度春学期	4.7	4.7	4.8	4.7	4.6	4.6	4.6	4.6	4.8
2019年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.8	4.7	4.7	4.7	4.9
2020年度春学期	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.8	4.8	4.7	4.9
2020年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.7	4.6	4.8	4.8	4.7

2020年度春学期の【設問6】と【設問7】は、専攻全体で低い結果となり、秋学期には回復傾向にあることを確認したが、これは授業の難易度によっても一定の傾向が見られる。

コア科目に限定すると、【設問6】(春4.3、秋4.4)と【設問7】(春4.3、秋4.4)と、春学期は非常に低く、また秋学期になっても例年より低い水準に止まっている。

ベーシック科目では、【設問6】(春4.3、秋4.6)と【設問7】(春4.4、秋4.6)と、春学期は低いが、秋学期には例年並みに回復している。

アドバンスト科目に至っては、【設問6】(春4.8、秋4.6)と【設問7】(春4.8、秋4.8)と、逆に例年より高い結果となっている。

これは、授業スタイルが講義形式なのかゼミナール形式なのかが大きく影響しているものと思われる。コア科目では講義形式の授業が多く、それらはこのオンライン授業化により、web経由で配布される課題を自主的に解くだけになったり、またZoom授業の場合でも対面のときほどには気軽に発言・質問がしにくくなってしまった結果、評点を落としてしまったのだと思われる。

逆に、アドバンスト科目では少人数のゼミナール形式が多く、それらはZoomによるオン

ライン授業により、例年と同程度の教育効果を得ることができたのだと思われる。ただ、春学期に至っては、むしろ例年よりも高い評点とまでなったことは、多少驚くべきことではある。

春学期は突然のオンライン授業化という特殊要因があったので、秋学期だけで傾向を分析すると、基本的にコア科目は評点が低く、アドバンスト科目は評点が高いという、例年と同じ傾向が観察される。

一般論として、コア科目は導入教育に該当する科目が多く、そこでは、講義形式で一定量の負荷をもって実施されることが多い。また、会計士・税理士をめざすプログラムの授業内容は、近年の企業会計基準の新設・改訂等によって増加している傾向にある。このような導入教育段階にあるコア科目の受講時においては、学生が授業内容および課題の取組みにとりわけ負荷を感じていることと考えられる。

さらに、コア科目は1年生が主に受講しているが、入学時点での会計知識の水準がばらついていることも影響している。会計知識のある学生からすれば、ただの復習程度の内容に止まり、その一方、知識のあまりない学生からすれば、難しすぎるとして不満が出やすい構造である。しかも、コア科目は受講生の人数が比較的多いため、個別的な対応が難しい（オンライン授業ではなおさらである）。

このような問題を抱えているため、コア科目は一般的に評点が低めに出やすいのに加えて、オンライン授業化により更に低くなりやすくなっているため、改善を図るのなら、まずはコア科目の改善を図るべきである。特に、学生の理解度の確認や、課題量が適正かどうかを重点的にチェックすべきである。

② 学生自身の取組み（【設問 10】・【設問 11】）

「学生自身の取組み」を問う【設問 10】と【設問 11】の評価に関して、例年、他の設問に比して常に低くなっている。これは、学生自身の謙虚な姿勢が表れている可能性があるものの、予習・復習、課題を含めた授業全体の実践に改善の余地があるものとも言えよう。しかし、2020年度は、コア科目とベーシック科目では例年と大差ないが、アドバンスト科目は、【設問 10】（春 4.7、秋 4.6）と【設問 11】（春 4.9、秋 4.7）と、特に春学期において例年より高い結果となっている。

図らずも、アドバンスト科目においては、オンライン授業化による課題学習の増大が、この結果につながったと言えるだろう。課題学習が増大したにもかかわらず、アドバンスト科目では【設問 7】（春 4.8、秋 4.8）の結果も良好であったので、少なくともアドバンスト科目においては、この課題学習の増大は好意的に評価されているようである。このため、今後もこの水準を維持することが求められる。

表 4：【設問 10】から【設問 14】の平均値

	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
(専攻全体)					
2016 年度春学期	4.4	4.2	4.4	4.6	4.7
2016 年度秋学期	4.4	4.2	4.4	4.6	4.7
2017 年度春学期	4.3	4.1	4.4	4.6	4.7
2017 年度秋学期	4.3	4.1	4.4	4.6	4.6
2018 年度春学期	4.3	4.3	4.4	4.5	4.6

2018年度秋学期	4.4	4.3	4.5	4.6	4.7
2019年度春学期	4.5	4.3	4.5	4.6	4.7
2019年度秋学期	4.5	4.5	4.6	4.7	4.7
2020年度春学期	4.5	4.4	4.5	4.5	4.7
2020年度秋学期	4.5	4.5	4.5	4.6	4.7
(コア科目)					
2016年度春学期	4.3	4.1	4.3	4.6	4.7
2016年度秋学期	4.4	4.2	4.4	4.5	4.6
2017年度春学期	4.2	4.0	4.3	4.6	4.7
2017年度秋学期	4.3	4.0	4.2	4.4	4.5
2018年度春学期	4.3	4.2	4.3	4.5	4.5
2018年度秋学期	4.3	4.1	4.4	4.5	4.5
2019年度春学期	4.5	4.3	4.4	4.6	4.7
2019年度秋学期	4.6	4.5	4.5	4.6	4.6
2020年度春学期	4.5	4.3	4.4	4.5	4.7
2020年度秋学期	4.5	4.5	4.4	4.5	4.6
(ベーシック科目)					
2016年度春学期	4.5	4.4	4.5	4.7	4.8
2016年度秋学期	4.3	4.2	4.4	4.7	4.7
2017年度春学期	4.4	4.3	4.5	4.8	4.8
2017年度秋学期	4.3	4.2	4.5	4.6	4.7
2018年度春学期	4.4	4.4	4.5	4.6	4.7
2018年度秋学期	4.4	4.3	4.6	4.7	4.7
2019年度春学期	4.5	4.4	4.6	4.7	4.7
2019年度秋学期	4.5	4.5	4.6	4.7	4.7
2020年度春学期	4.4	4.4	4.4	4.5	4.6
2020年度秋学期	4.4	4.3	4.5	4.7	4.8
(アドバンスト科目)					

2016 年度春学期	4.3	4.1	4.5	4.6	4.6
2016 年度秋学期	4.5	4.4	4.6	4.7	4.7
2017 年度春学期	4.5	4.5	4.7	4.7	4.7
2017 年度秋学期	4.1	4.0	4.5	4.7	4.7
2018 年度春学期	4.5	4.4	4.4	4.5	4.6
2018 年度秋学期	4.4	4.4	4.6	4.7	4.7
2019 年度春学期	4.2	4.3	4.5	4.6	4.7
2019 年度秋学期	4.6	4.5	4.7	4.8	4.8
2020 年度春学期	4.7	4.9	4.7	4.8	4.8
2020 年度秋学期	4.6	4.7	4.6	4.6	4.8

③ 授業の満足度（【設問 12】～【設問 14】）

【設問 12】から【設問 14】の評価は、授業に対する評価の結論的指標となるものである。専攻全体でみると、【設問 12】～【設問 14】の 2020 年度の評点は例年通りとなっている。

科目の難易度による違いをみると、【設問 12】～【設問 14】では、例年通り、コア科目やベーシック科目の評点がアドバンスト科目の評点と比べて若干低くなっている。

この意味では、【設問 12】から【設問 14】に関しては、コロナ禍によるオンライン授業化の影響は特に表れてはいないようである。

以上をまとめると、2020 年度のコロナ禍によるオンライン授業化の影響は、春学期のコア科目とベーシック科目の【設問 6】「教員は、個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか。」と、【設問 7】「この授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか。」において顕著にネガティブに表れた。その後、秋学期になり、ベーシック科目では持ち直したものの、コア科目ではいまだ例年の水準に戻っていない。

よって、コア科目に多い講義形式のオンライン授業では、学生の理解度の確認や、課題量が適正かどうかを重点的にチェックすべきである。

また、アドバンスト科目では例年より良い評価となっているので、引き続き、この水準を維持するべきである。

B. 教員による担当科目自己評価

2019 年度から、教員の担当科目自己評価はオンラインで実施されることになり、それにともない、質問事項も大幅に変更された。設問は次のとおりである。

<選択回答>

1. 授業はシラバスに示した主題や目的に沿って行いましたか。
2. 学生が発言したり議論したりすることに十分配慮を払いましたか。
3. 個々の学生の内容理解の水準を考慮しましたか。
4. 学生の質問に丁寧に答えましたか。
5. この授業で学生の分析能力や批判力がついたと思いますか。
6. この授業はあなたにとって満足のいくものでしたか。

7. この授業は学生の仕事や資格の取得に役立つものと考えられますか。
8. この科目を担当するにあたって力を入れたことは何ですか。(複数選択可)
9. 上記1~8の回答を踏まえて、この科目を担当するにあたって当初予定していた目標は達成されたと思いますか。

回答は、【設問8】以外は、

- 5：そう思う
- 4：だいたいそう思う
- 3：どちらとも言えない
- 2：あまりそう思わない
- 1：そう思わない
- NA：該当しない

から一つを選択する。

また、【設問8】は、

- 学生の理論の理解を促す
- 学生の思考力の向上を図る
- 学生の学習への自発性を促す
- 学習内容の理解の定着を図る
- 学生間の相互学習を促す授業運営
- 学習内容の実務への応用性
- 理論と実践のバランスを考えた授業の構成
- その他

から該当するものを選択する（複数選択可）。

<記述回答>

1. この科目において、実施してよかった点は何ですか。クラスで実施した小テストやレポートの内容、発問に対する学生の答え、学生の教員への質問などから総合してお答えください。
2. この科目において、改善・工夫をした方がよい点は何ですか。クラスで実施した小テストやレポートの内容、発問に対する学生の答え、学生の教員への質問などから総合してお答えください。

<選択回答>の回答数は次のとおりであった。

表5：教員による担当科目自己評価（2020年度）<選択回答>

(専攻全体)	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問9
5 そう思う	89	45	35	58	29	30	64	44
4 だいたいそう思う	25	27	48	41	65	61	43	57
3 どちらとも言えない	1	11	27	4	14	16	4	9
2 あまりそう思わない	2	2	3	3	5	9	3	4
1 そう思わない	0	3	2	0	0	1	0	1

NA 該当しない	0	29	2	11	4	0	3	2
合計	117	117	117	117	117	117	117	117
平均値	4.7	4.2	4.0	4.5	4.0	3.9	4.5	4.2
昨年度平均値	4.7	4.4	4.2	4.7	4.1	4.3	4.5	4.4

(コア科目)	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 9
5 そう思う	28	5	7	11	4	3	18	7
4 だいたいそう思う	11	10	14	21	23	22	18	23
3 どちらとも言えない	0	9	17	2	12	10	2	8
2 あまりそう思わない	2	1	1	1	2	5	2	1
1 そう思わない	0	1	2	0	0	1	0	1
NA 該当しない	0	15	0	6	0	0	1	1
合計	41	41	41	41	41	41	41	41
平均値	4.6	3.7	3.6	4.2	3.7	3.5	4.3	3.9
昨年度平均値	4.7	4.0	4.0	4.6	4.1	4.3	4.4	4.3

(ベーシック科目)	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 9
5 そう思う	34	16	11	22	12	14	25	18
4 だいたいそう思う	8	11	20	14	23	21	14	21
3 どちらとも言えない	1	1	8	1	1	4	1	1
2 あまりそう思わない	0	1	2	2	3	4	1	2
1 そう思わない	0	2	0	0	0	0	0	0
NA 該当しない	0	12	2	4	4	0	2	1
合計	43	43	43	43	43	43	43	43
平均値	4.8	4.2	4.0	4.4	4.1	4.0	4.5	4.3
昨年度平均値	4.8	4.4	4.1	4.7	4.0	4.3	4.6	4.3

(アドバンスト科目)	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 9
5 そう思う	27	24	17	25	13	13	21	19
4 だいたいそう思う	6	6	14	6	19	18	11	13
3 どちらとも言えない	0	1	2	1	1	2	1	0
2 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	1

1 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
NA 該当しない	0	2	0	1	0	0	0	0
合計	33	33	33	33	33	33	33	33
平均値	4.8	4.7	4.5	4.8	4.4	4.3	4.6	4.5
昨年度平均値	4.7	4.8	4.5	4.8	4.3	4.4	4.5	4.6

設問 8（選択割合）	専攻全体	コア科目	ベーシック科目	アドバンスト科目
学生の理論の理解を促す	68%	59%	79%	64%
学生の思考力の向上を図る	53%	39%	51%	73%
学生の学習への自発性を促す	61%	46%	70%	67%
学習内容の理解の定着を図る	66%	51%	79%	67%
学生間の相互学習を促す授業運営	8%	2%	5%	18%
学習内容の実務への応用性	37%	20%	35%	61%
理論と実践のバランスを考えた授業の構成	30%	20%	30%	42%
その他	6%	12%	2%	3%

コロナ禍により急遽導入されたオンライン授業は、総じてコア科目の評価にかなりの悪影響を与えたが、アドバンスト科目には特に何の影響も与えていないようである。以下、設問毎に見ていくことにする。

【設問 1】（以下、【教員設問 1】と表記）「授業はシラバスに示した主題や目的に沿って行いましたか。」は、学生に行った授業評価アンケートの【設問 1】（以下、【学生設問 1】と表記）と対応している。これを見ると、教員は概ね、どの難易度の科目であっても高く評価（4.6～4.8）しており、また、学生の評価も、2020 年度春学期・秋学期は、どの難易度の科目でも概ね 4.7～4.9 と、高く評価している。

よって、この【設問 1】に関しては、非常に好ましい結果となっている。

【教員設問 2】「学生が発言したり議論したりすることに十分配慮を払いましたか。」は、【学生設問 5】と対応している。教員側の回答では、コア科目において低い評価（3.7）となっている。コア科目はどうしても講義形式の授業が多くなるため、一方通行の説明になりやすく、例年低い評価となっている（昨年度は 4.0）のだが、今年度は、更にオンライン授業化がこの傾向に拍車をかけてしまった。

同様に、ベーシック科目やアドバンスト科目では、ディスカッション形式の授業も増えるので、例年であれば教員側は高い評価（昨年度はベーシック科目 4.4、アドバンスト科目 4.8）が多いのだが、こちらも若干評価を下げている（ベーシック科目 4.2、アドバンスト科目 4.7）。

ただ、【学生設問 5】の評価をみると、教員側ほどには評価が下がっていないのは幸いである。

今後は、オンライン授業に対応して、できる限り学生が発言したり議論したりする環境を整えることが望まれる。

【教員設問 3】「個々の学生の内容理解の水準を考慮しましたか。」は、【学生設問 6】と対応している。教員側の回答は、例年、講義形式が多いコア科目では低めに、そしてゼミナール形式が多いアドバンスト科目では高めに出るが、オンライン授業では、この傾向がさらに顕著になった。コア科目はかなり低くなり（昨年度 4.0 → 今年度 3.6）、ベーシック科目（昨年度 4.1 → 今年度 4.0）とアドバンスト科目は（昨年度 4.5 → 今年度 4.5）例年と変わりなく評価されている。

学生側でも概ね同様の評価である。2020 年度のコア科目では春学期 4.3 と秋学期 4.4 であるが、ベーシック科目は同 4.3 と 4.6、アドバンスト科目では同 4.8 と 4.6 となっている。春学期のベーシック科目は 4.3 と低い、秋学期には 4.6 と評価を戻している。

このことから、オンライン授業化の影響は、コア科目に多い講義形式の授業において、学生の理解度の確認が難しくなったことに顕著に現れている。これは、対面授業であれば容易に実施できていたはずの小テストがオンライン授業では実施困難になったり、オンラインのモニター越しでは講義中の学生の反応を確認しにくいことなどが一因と思われる。

今後は、オンライン授業に対応して、学生の理解度を確認する方法を考えることが急務である。

【教員設問 4】「学生の質問に丁寧に答えましたか。」は、【学生設問 9】と対応している。講義形式の授業でも、対面授業であれば、授業後などに教員に質問することも気軽に行えたし、教員も学生の反応を確かめながら回答できたものの、オンライン授業ではなかなか難しかったようで、特にコア科目において低くなっている（昨年度 4.6 → 今年度 4.2）。

そのわりには、学生からの評価はそこまで変化がない（コア科目【学生設問 9】 2019 年度：春 4.7、秋 4.6 → 2020 年度：春 4.6、秋 4.7）ことは幸いといえる。

【教員設問 5】「この授業で学生の分析能力や批判力がついたと思いますか。」は、【学生設問 12】と対応している。【教員設問 3】で見たとおり、コア科目に多い講義形式の授業において、オンライン授業では学生の理解度の確認が難しくなったため、この【教員設問 5】でも評価が減少している（コア科目 昨年度 4.1 → 今年度 3.7）。

ただしこちらも、学生からの評価はそこまで変化がない（コア科目【学生設問 12】 2019 年度：春 4.4、秋 4.5 → 2020 年度：春 4.4、秋 4.4）ことは幸いといえる。

【教員設問 6】「この授業はあなたにとって満足のいくものでしたか。」は、【学生設問 13】と対応している。コア科目では評価が大きく減少しているが（昨年度 4.3 → 今年度 3.5）、アドバンスト科目ではほぼ変化がない（昨年度 4.4 → 今年度 4.3）、という傾向が、最も強く現れている設問であった。

ただしこちらも、学生からの評価はそこまで変化がない（コア科目【学生設問 13】 2019 年度：春 4.6、秋 4.6 → 2020 年度：春 4.5、秋 4.5）ことは幸いといえる。

【教員設問 7】「この授業は学生の仕事や資格の取得に役立つものと考えられますか。」は、設問の文章の表現が異なっているが、【学生設問 14】と対応している。

これは、教員側の評価も、学生側の評価も、ともに例年と大差がなかった。

【教員設問 8】では、授業の中で力を入れた点を、選択形式で質問している。複数選択可能なため、各選択割合の合計は 100%を超える。例えば、「学生の理論の理解を促す」と選択した割合は、専攻全体では 68%であった。

これを見ると、「学生間の相互学習を促す授業運営」が著しく低くなっている。オンライン授業では、学生と教員間以上に、学生間のコミュニケーションを図るのは難しいが、その影響が明確に出た結果となった。

Zoom には、ブレイクアウトルームなど、学生間のグループワークやグループディスカッションなどを可能にするツールも存在しているので、これらの機能をうまく使いこなすこ

とが求められる。

【教員設問 9】は、教員が当初予定していた授業目標を、達成したかどうかを質問している。これも、オンライン授業ではコア科目が例年より更に低くなっている（昨年度 4.3 → 今年度 3.9）。

まとめると、例年、コア科目は低めの、そしてアドバンスト科目は高めの評価がされやすい傾向にあった。そして、今年度から急遽始まった授業のオンライン化は、コア科目に更なる評価の減少をもたらした。

それは、具体的には、コア科目に多い講義形式の授業では、オンライン化により、①ただでさえコア科目では、受講生の予備知識や理解度の差が大きく、理解度の確認が重要であるにもかかわらず、学生の理解度を確認しにくくなったこと、及び、②学生と教員間や、学生同士の間でコミュニケーションがとりづらくなったこと、の二つが好ましくない影響を与えているようである。

これに比べると、ベーシック科目ではオンライン化の悪影響はあまり大きくなく、またアドバンスト科目にいたっては、オンライン化の悪影響は全くみられなかった。これは、ベーシック科目には講義形式の授業も多いが、ベーシック科目では、受講者の予備知識が比較的揃っている（予備知識のない学生は、そもそも受講しない）ことが、オンライン化の悪影響を軽減しているものと思われる。また、アドバンスト科目に多いゼミナール形式の授業では、学生の理解度の確認も、参加者間でのコミュニケーションも容易だからであろう。

<記述回答>では、【記述設問 1】この科目において、実施してよかった点は何ですか、【記述設問 2】この科目において、改善・工夫をした方がよい点は何ですか、を自由記述形式で回答してもらっている。自由記述形式なのは、教員の自由な意見を集めるためである。

以下では、各設問に対する回答の全体的な傾向を把握するために回答内容を分類し、これに基づいて分析を行っている。ただし、次のような制約、限界がある点に留意されたい。まず、分類にあたっては回答の文言よりもその趣旨に基づいているが、各設問の回答は自由記述形式であるため、その判断が主観的なものとならざるを得ない部分がある。回答が少ない項目は、表には含めていない。そして、単一の授業で非常に多くの項目を回答している場合は、特に重要と思われる 2, 3 程度の項目に限定して集計している。

【記述設問 1】担当科目において実施してよかった点

担当科目において実施してよかった点に対する回答内容の概要は、次の表のとおりである。

表 6：担当科目において実施してよかった点に対する回答率

	コア科目	ベーシック科目	アドバンスト科目
小テスト・中間テスト	5%	5%	3%
宿題・レポートなどの課題	34%	37%	12%
要点を得た、もしくは詳細なレジュメ・配布資料の作成	17%	12%	6%
基礎知識や重要論点の確認等を踏まえた丁寧な解説・指導	15%	21%	30%
事例・実務に則した授業（ゲストスピーカーやケースス	—	12%	12%

タディの工夫も含む)			
理論解説、実務解説、演習などのバランスの工夫	2%	7%	3%
テスト・課題に対する教員からのフィードバック	5%	5%	12%
学生による課題発表や積極的な発言	5%	5%	18%
双方向な授業の実践	7%	16%	36%
グループワーク、グループディスカッション	5%	—	—
パワーポイント等の ICT 機器の使用	5%	—	—
オンライン授業における効果的な指導法の実践	15%	16%	12%

例年、コア科目やベーシック科目では、「小テスト・中間テスト」が非常に多いのだが、オンライン授業化に伴い、回答数が激減した。代わりに、「宿題・レポートなどの課題」が（例年、この回答も多いのだが）例年よりも増加した。

この表から、従来、講義形式の科目では、理解度の確認や、期末試験以外の成績評価要素として、小テストがよく実施されていたが、オンライン授業化に伴い、これが小レポートや毎週の課題などに変更されたことが分かる。

コア科目の【学生設問 7】「この授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか。」は、（春 4.3、秋学期 4.4）と低くなっているため、小テストから小レポート・毎週の課題への変更は、学生にとってかなりの負担となっている可能性がある。

特にコア科目においては、オンライン化前と比べて課題の量が増えるのは止むを得ないし、また突然のオンライン化により、教員には小レポート・課題の内容を十分に検討する時間的余裕が無かったことも確かである。

今後はより効果的となるように、課題の内容や分量を検討する必要があるだろう。もちろん、検討の結果、課題量が結果として増えてしまっても、それがその授業にとって重要な課題であるのなら、実施すべきである。

【記述設問 2】担当科目について改善・工夫をした方がよい点

担当科目について改善・工夫をした方がよい点に対する回答内容の概要は、次の表のとおりである。

表 7：改善・工夫をした方がよい点に対する回答率

	コア科目	ベーシック科目	アドバンス科目
レジュメ・テキスト・配布資料等の教材の改善	2%	7%	3%
講義（解説）・演習などの時間配分	7%	7%	3%
学生の能力・予備知識・理解度の差への対応	2%	14%	18%
双方向な授業の導入・双方向性を増やす取組み	7%	2%	6%
学生による自発的学習の促進	5%	5%	9%
授業で扱うトピックの選定、及び質と量のバランス	15%	16%	12%
演習問題や課題の内容の改善	7%	12%	6%
小テストや課題などの実施、または量の改善	2%	—	—

オンライン授業における指導法の改善	27%	19%	15%
学生の理解度の把握	27%	5%	—
特になし	10%	19%	24%

オンライン授業化の影響は、特にコア科目で顕著である。コア科目では、「オンライン授業における指導法の改善」と「学生の理解度の把握」が非常に多い。

オンライン化は今年度からなので、当然ながら、「オンライン授業における指導法の改善」は今年度から出現した回答である。しかし、実のところ、「学生の理解度の把握」も、昨年度までは回答がなく、今年度から出現した回答である。

これは、対面の講義形式の授業であれば、小テストなどで容易に理解度が把握できていたものが、オンライン授業化により、それが困難となってしまったことを表している。それに比べると、ゼミナール形式が多いアドバンスト科目では、学生の理解度の把握は問題なくできるようである。

「オンライン授業における指導法の改善」はどの難易度の科目でも多いが、特にコア科目で多いのは、受講生の予備知識の差が大きく、また講義形式が多いというコア科目の特徴を反映したものであろう。

6. 今後の課題

A. 経営戦略専攻企業経営戦略コース

コロナ禍により、対面授業がほぼ全面的にオンライン授業に変更になり、学生による授業評価も多くの質問において前年度を下回る結果となった。しかしながら、講義方法の変更は、教員がこれまでに培ってきた教授方法を見直すことを強いるもので、その対応が間に合っていない結果の表れとも言える。また学生側の視点からも、これまで対面で慣れていた講義への参加方法が通用せず、オンライン授業をどのように参加/活用すればわかりにくいという戸惑いがあったとも推察され、それが授業評価の低下へとつながっていると考えられる。一方でアンケート結果を春と秋に分けて評価を比較すると、秋に大幅な改善があったことがわかった。これは、教員/学生双方が工夫により新しい講義に適應していったためであろう。また科目による評価のバラツキも目立っており、新しい講義にうまく対応できている教員と苦戦している教員の存在が伺い知れた。以上のことから、以下の3点を課題として認識し改善策を講じていくことが必要となろう。

1) オンライン授業に特化したFD

評価の高い講義を担当する教員によるオンライン授業実施でどのような工夫をしているかを広く共有するためのFDの実施が効果的であろう。

2) 学生側のスムーズなオンライン講義への対応

オンライン講義では、教員の講義/板書、ソフトウェアを利用した実習、LUNA や第三の教材ツールの利用など、技術的に多様な内容に対応することが学生には求められる。そこで、オンライン講義を受講するに当たってのリテラシー教育を入学前講座として共通して実施することが効果的であろう。

3) ポストコロナを見越した新しい講義形式の確立

オンライン講義の実施により、授業内容をビデオで配信することで復習が効率的に実施できるようになったり、場所を選ばない参加が可能になるなど、学生サイドに多くメリットがあることもわかってきた。そこでポストコロナにおける講義では、完全に対面授業に

戻すのではなく、オンライン授業と対面授業の利点/欠点を精査した上で、最適な授業の実施方法を今の段階から検討し、設備や機材を充実させていく必要がある。

B. 国際経営コース

2020年度の授業評価を受けて、最も重要な今後の課題として指摘できるのは、授業のセールスポイントを、より効果的に履修者にアピールするテクニックの強化の必要性である。上述したように、今回の満足度評価においては、従来、継続的に高い評価が得られていた質問項目1～3、および、アドバンスト科目群、ベーシック科目群において、満足度の低下が観測された。教員側の知識、スキル、授業設計などに大きな変化があったとは考えられないので、オンライン授業への移行に伴い、これらのセールスポイントを効果的に履修者に訴求しきれなかった側面がある可能性は真剣な検討に値するであろう。特に、履修者が自宅から授業に参加している場合、教室での対面授業と同等の集中力を期待することは難しい場合も少なくない。このような、言わばハンディ付きの授業環境においても、適確に授業の価値を伝えるスキルの修練が求められているものと考えられる。

第二に、学生による主体的な学習姿勢の維持（および強化）である。今回の評価では学生による予習や関連資料の学習に関する満足度評価に改善が観測され、他の評価項目に対して大きな遜色のない評価が得られた。ここ数年、継続的に課題として指摘されてきた項目に改善が見られたわけである。こうした改善とコロナ禍によるオンライン授業との関連は必ずしも明らかではないが、対面授業の復活後も、学生による主体的な学習努力の継続は重要な課題であることは明らかである。

第三に、学生の授業への満足度評価と、教員側の自己評価との乖離を解消する努力も必要であろう。学生の満足度評価で様々な項目に低下が観測されている一方で、教員側の自己評価では総じて肯定的な回答が得られている。オンライン授業では、授業を通じた学生とのやり取りの中で、学生が感じている不満や物足りなさを充分に感じ取ることが難しかったことを示している可能性が高いと言わざるを得ない。上述した伝えるスキルの向上と併せて、感じ取るスキルの強化の必要性を示している可能性も考えられよう。

C. 会計専門職専攻

例年、学生側からも教員側からも共に、コア科目は低めの、そしてアドバンスト科目は高めの評価がされやすい傾向にあった。そして、コロナ禍による突然のオンライン授業化は、受講生の予備知識の差が大きく、また講義形式が多いというコア科目に、更に深刻な影響をもたらした。

それは、教員側には、①オンライン授業では小テスト実施が困難なため、学生の理解度が把握しづらくなってしまったこと、及び、②慣れないオンライン講義では、学生からの積極的な発言を促すような、円滑なコミュニケーションを伴った授業の実施が困難であったこと、として表れた。

そして、学生側には、(1)小テストの代わりに実施された小レポートなどの課題の過度の増加、及び、(2)教員が受講生の理解度が把握しづらくなったことに由来する、受講生の理解度を考慮しない（できない）授業の実施、として表れた。

2021年度もオンライン授業は継続されると思われる（実際、春学期はオンライン授業が中心である）ので、この問題は速やかに解消される必要がある。

まず、要求する課題の内容や分量を見直して、過度に多くの負担を求めているかを検討する必要がある。（もちろん、検討の結果、課題の内容や分量がその授業にとって重要なものであると確認されたのなら、結果的に課題量が増えたとしても、実施すべきである）また、受講生の理解度を把握する方法も検討する必要がある。

Zoomには、ブレイクアウトルームや投票機能など、学生と教員間、または学生間の円滑なコミュニケーションを図る機能が存在しているので、教員側はこれらの機能について習熟し、使いこなすことで、これらの問題は、（全部とは言えないが）ある程度は解決すると

思われる。

D. 総評

今回の報告書でも例年通りに経営戦略専攻の企業経営戦略コースと国際経営コース、会計専門職専攻の3つに分けてそれぞれの問題点を指摘してもらっている。全体としてPDCAサイクルが緻密に確立するところまでには工夫が必要であるがすぐにでも手が付けられる問題があると思われる。まず、本年度はコロナウイルスの感染拡大によるメディア授業への対応という状況下であったことを理解する必要がある。各パートでも指摘されているが、春学期は対応に手一杯で学生からの評価が低下したが、秋学期には教員の努力、研究科のFDの実施、学生の対応などによって評価は改善していると考えられる。この点は評価できることであり、さらなる改善が必要であると考えている。

しかしながら、企業経営戦略コースでの講義に対する学生インタビューの評価でも幾つかの講義でオンラインでの実施上の問題があったことが指摘されている。2021年度での改善が必要であると言えるだろう。

専門職大学院ではますますビジネスの現場における高度な実践力を支える知識、理論、技能が求められている。学生インタビューの結果を見ると専門職大学院で技能習得の段階的な連続性を確保するためには事前学習も望まれており、そのためにオンデマンド教材の活用も視野に入れることも考慮される。

国際経営コースでは、学生からもオンラインの環境下で他の学生とのコミュニケーションやディスカッションに限界があることが示唆されている。オンラインでの授業を続けていくとすると対面型との組み合わせなど改善方法を考えていく必要があるだろう。

会計専門職専攻では、メディア授業を進める中で、コア科目の満足度があまり高くないことが示されている。講義型でかつ基本的な内容を理解する上で教員との双方向的なコミュニケーションの重要性が推察される。コロナウイルスの感染状況の改善に伴い対面授業に復帰していく中でメディア授業の使い方の参考になる結果であると思われる。

最後に、本報告書の元になっている各データの活用について2020年度を通して検討をする予定である。学生へのインタビューの活用も含めて来年度の報告書の課題としたい。

以 上

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科
内部質保証委員会
コンビーナー 山本 昭二